

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
輝く笑顔 弥生っ子の育成 やさしく 助け合う子 よく学び よく考える子 いきいき 活動する子	あいさつ運動 確かな児童理解 わかる授業 朝学習 家庭学習の習慣化 基本的生活習慣の確立 体力の向上 危険予知、回避能力の育成
※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」	

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語Aの「話すこと・聞くこと」の領域については8割程度が理解できているが、「読む」の領域に課題がある。 ○算数Aの「数と計算」の領域は、平均正答率が県平均を上回った。 ○国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率が低い。 ○理科の「観察・実験の技能」は、平均正答率が県平均を上回った。 ○国語Aの慣用句の意味；本校92% (全国90%) ○算数Aの単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味；本校36% (全国50%) ○理科の腕が曲がる仕組み；本校62% (全国56%)、 県 ○3年生の算数は、各領域の力のバランスがよい。 ○3～5年は県平均を下回っており、課題が多い。 ○3～5年とも、上位層も下位層も多く、二極化の傾向が見られる。	【学習状況調査の結果】 テレビの視聴時間 ○普段1時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする割合は、県平均より低い。 家庭学習の時間 ○学校の授業時間以外に、「普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答で、「2時間以上している」の割合は県平均より高い。 読書時間 ○学校の読書時間以外に、「普段1日当たりどのくらいの時間読書をしているか」の割合は、県平均より低い。 あいさつ ○5年生の結果から、「家の人や近所の人に挨拶をしている」は県平均よりやや低い。 ○地域の行事に参加；本校88% (全国62%) ○自分によいところがある；本校90% (全国84%)、 ○毎日同じくらいの時刻に寝ている；本校80% (全国77%)

成果	課題
○放課後の補充学習や家庭学習で、前学年で学習した内容や苦手な問題に取り組む時間が増えた。 ○「自分にはよいところがある」という児童が増えた。本年度90%(昨年度82%) ○毎日の授業で、ペアタイム、グループタイムの時間を意識して取り入れ、授業改善を進めている。	○型にはまった文章を書くことができるようになってきたが、書くことへの抵抗感を持っている児童は多い。 ○読書時間や読書が好きな児童を増やすことが大切である。 ○家庭学習の習慣がついている児童が多いが、予習・復習・自主学習など内容の充実が必要である。

何を(改善すべきこと)	いつまでに (成果検証の期限)	どこまで (対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況 (12月末現在)	達成 度	達成状況 (年度末)	達成 度	次年度への改善点・重点課題
国語・算数の基礎的な問題の定着	2月まで	全学級で、復習用教材や問題データベースの活用を最低週に1回行う。	・朝学習、授業、家庭学習、放課後補充学習で、学力テストなどでつまずきのあった問題を解けるようにする。					
学校だけでなく、家庭・地域でも進んであいさつのできる児童を育てる。	2月まで	児童アンケートで「すすんであいさつをしている」が肯定的な児童の割合を80%以上にする。	・毎週水曜日に運営委員会の児童と教員があいさつ運動を行う。					
家庭学習の定着と充実	2月まで	全学級で宿題100%提出	・家庭学習の手引きを使って、児童だけでなく、保護者へも協力を依頼する。 ・自主学習について、児童に内容をアドバイスしたり、模範となるノートを掲示したりする。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力状況調査の分析をもとに、岡山型スタンダードに沿った授業づくりをする。 ○小中連携にする授業公開や研修を通して共通理解をする機会を多く持つ。	○進んであいさつができる学校・地域を目指して、学校だよりや地区懇談会でも話題に取り上げる。 ○スマホやメディアについての講演会を行い、理解と啓発を高める。 ○ノーメディアの取組を家庭を巻き込んで行う。